



旅先でも“おうちパトロール”を ～こどもの「外傷」「やけど」「窒息」事故に注意！～

独立行政法人製品評価技術基盤機構〔NITE（ナイト）、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原〕は、「屋内で起こるこどもの事故」について注意喚起を行います。

大型連休を利用し、こどもを連れて旅行や親戚のおうちに遊びに行くご家庭も多いかと思えます。2019年から2023年までの5年間にNITEに通知された製品事故情報^{※1}では、0歳から6歳までのこども（乳幼児）が被害に遭った事故^{※2}は73件発生していますが、そのうち約7割（54件）は屋内での事故となっており、外傷（挟み込み・下敷きなど）、やけど、窒息・誤飲で重篤な被害を受けたケースが多くなっています。

家の中には、大人にとっては危険がなくとも、こどもにとっては思わぬ製品事故の危険が潜んでいることがあります。普段大人だけで過ごしている親戚のおうちや宿泊施設などに行くときは特に注意が必要です。

屋内でのこどもの事故を未然に防ぐために、事故を防ぐポイントを知り、危険な状態になっていないか点検する“おうちパトロール”が重要です。もし、危険な状態を発見したら、こどもがその製品に近づけないようにするなどの改善をしてください。

普段は“おうちパトロール”をしても、外出先では忘れてしまうかもしれません。外出先でも“おうちパトロール”を実践して、楽しく安全に大型連休を過ごしましょう。



こどもの手の届かないところに設置したうえで、電源コードの配置にも注意

■家の中で起こるこどもの事故を防ぐおうちパトロール

- こどもにとって特に注意が必要な製品がないかチェックする。
- こどもにとって危険な設置をしていないかチェックする。
- 外出先でもチェックする。

（※1）消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含みます。

（※2）死亡、重傷、軽傷の事故。

1. 事故の発生状況

1-1. 年ごとの事故発生件数

NITEが収集した製品事故情報のうち、2019年から2023年までの5年間に発生した、0歳から6歳までの子どもが被害に遭った事故73件について、図1に「年ごとの事故発生件数」を示します。屋内の事故が約7割（54件）を占めています。

なお、屋外の事故では、自転車に関連した事故が多く発生していました。

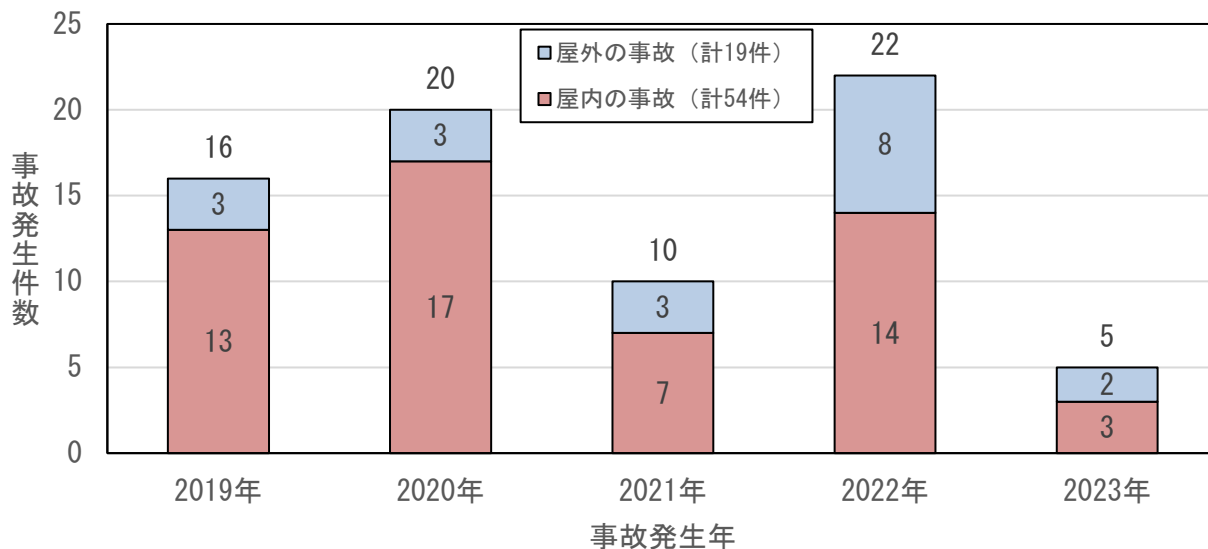


図1 年ごとの事故発生件数

1-2. 事象別製品別の被害状況

表1に屋内の事故54件の「事象別製品別の被害状況」を示します。

「外傷」としては、扉の隙間に指を挟むなどの事故や、転倒した家具の下敷きになる事故などが発生しています。

「やけど」では、熱湯を扱う家電製品による事故が多く発生しています。

「窒息、誤飲」では、家具や建具による死亡事故や、玩具の誤飲などで重篤な被害に至っており、特に注意が必要です。また、「皮膚炎（化学やけど）」は、玩具に装着された乾電池から漏れた電解液が、玩具の真下にいた子どもの目や頬にかかったなど、乾電池の液漏れによる事故となっています。

表1 事象別製品別の被害状況

	死亡	重傷	軽傷	総計
外傷		11	13	24
家具・建具		6	4	10
玩具・遊具		1	5	6
その他		4	4	8
やけど		9	6	15
ウォーターサーバー		1	5	6
加湿器(スチーム式) ^{※3}		5		5
電気ケトル・ポット		2		2
その他		1	1	2
窒息、誤飲^{※4}	6	5		11
いす(乳幼児用を含む)	2	1		3
ベッドガード	2			2
窓、カーテン、網戸	2	1		3
玩具		3		3
皮膚炎(化学やけど)		1	1	2
玩具(電池)		1	1	2
溺水	1			1
ベビーバス	1			1
不明	1			1
乳幼児用いす	1			1
総計	8	26	20	54

(※3) 加湿器(スチーム式)の機能を持った空気清浄機を含む

(※4) 誤飲には、小部品を耳などの身体に挿入したことによる事故を含む

1-3. 事象別年齢別の事故発生件数

表2にこどもの屋内の事故54件の「事象別年齢別の事故発生件数」を示します。

「やけど」はつかまり立ちにより手の届く範囲が広がる1歳前後での発生が多く、「窒息、誤飲」「皮膚炎」「溺水」は3歳未満に集中する傾向がみられます。

表2 事象別年齢別の事故発生件数

() 内は死亡事故件数

	1歳未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	総計
外傷	4	3	4	3	4	4	2	24
やけど	3	8	3		1			15
窒息、誤飲	3 (3)	3 (1)	1	2 (1)	1		1 (1)	11 (6)
皮膚炎	2							2
溺水	1 (1)							1 (1)
不明		1 (1)						1 (1)
総計	13 (4)	15 (2)	8	5 (1)	6	4	3 (1)	54 (8)

(死亡事故1件以上を赤字で表示)

2. 事故事例と気を付けるポイント

2-1. 挟み込み、下敷き等の事故

事例①扉での指挟み

2019年2月（東京都、2歳、重傷）

【事故の内容】

こどもがシステムキッチンの扉の丁番の隙間に指を挟み、負傷した。

【事故の原因】

扉を開くことで丁番に生じる隙間にこどもの指が挟まれ、負傷したものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

指、挟み、幼児



丁番での指挟み（イメージ）

事例②固定していない家具が転倒し負傷

2020年4月（千葉県、4歳、軽傷）

【事故の内容】

棚が倒れて周辺を損傷し、こどもが軽傷を負った。

【事故の原因】

付属の転倒防止金具が取り付けられておらず、設置直後で棚に何も置かれていなかったことで倒れやすい状態だったため、外力が加わって転倒に至ったものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

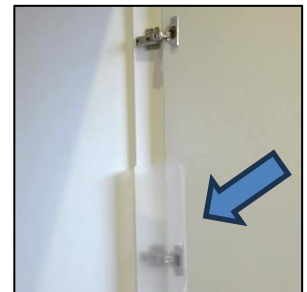
家具、転倒、幼児

挟み込み・下敷きの事故を防ぐためのポイント

○指挟み防止グッズを活用する。扉はこどもの位置を確認してから開閉する。

こどもが扉の丁番等に手を触れていると挟み込むおそれがあります。市販の指挟み防止グッズ等を活用して隙間に触れさせないようにすることが有効です。

また、近くにこどもがいるときは、扉の開閉に注意してください。こどもがいつの間にか扉に近づいて隙間に触れていることがあります。扉を開閉するときは、こどもがどこにいるのか確認しましょう。



指挟み防止グッズの活用例

○家具を壁や天井に固定する。家具で遊ばせない。

たんすなどの家具にぶら下がったり、引き出しを開けてよじ登ったりして家具が倒れ、こどもが下敷きになるなどの事故が発生しています。家具は固定し、扉や引き出しにロックをかけて遊ばせないなどの対策を取ってください。家具の固定は地震の対策としても有効です。

（参考情報：東京消防庁の「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」）

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/hp-bousaika/kaguten/handbook/>



たんすの下敷きになるこども（イメージ）



市販チャイルドロックの活用例

2-2. やけどの事故

■事例③：電気ポットによるやけど

2022年4月（徳島県、0歳7ヶ月、重傷）

【事故の内容】

宿泊施設でこどもが電気ポットを転倒させて、やけどを負った。

【事故の原因】

電気ポットが、上蓋が確実に閉まっていない状態で置かれていたか、若しくはこどもが電気ポットに触れた際に蓋の開く取っ手を持ったことにより転倒時に蓋が開き、中から多量の熱湯がこぼれてこどもにかかった可能性が考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

やけど、熱湯、乳児

■事例④：ウォーターサーバーによるやけど

2022年1月（大阪府、1歳、軽傷）

【事故の内容】

こどもがウォーターサーバーを触ったところ、熱湯がかかってやけどを負った。

【事故の原因】

親が熱湯を給湯後、蛇口の先端に残っていた高温の水滴にこどもが触れたため手首をやけどしたものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

やけど、ウォーターサーバー、幼児

こどものやけどの事故を防ぐためのポイント

○やけどのおそれがある製品にこどもを近づけないよう対策を取る

こどもは目につくもの、手の届くもの、興味を引くものをすぐに触ろうとします。ウォーターサーバーや電気ポット・電気ケトルなどの高温の湯を扱う製品がこどもの触れられる場所に置かれていないか確認し、こどもから遠ざけるようにしてください。

台所など複数の危険が潜む場所は、ベビーゲートを設置するなどして立ち入れないようにするのは有効な対策です。

製品をこどもの手の届かない高所に設置することも有効な対策ですが、垂れ下がった電源コードをこどもが引っ張ったことで事故に至ったケースがあるため、コードの配置状況にも注意しましょう。

電気ポット・電気ケトルなどには、転倒してもお湯がこぼれにくいように安全対策がなされたものがありますので、そういった製品の使用もご検討ください。



電源コードを引っ張って電気ケトルが落下（イメージ）



電源コードの配置にも注意して設置

2-3. 窒息、誤飲の事故

■事例⑤：玩具の部品（磁石）の誤飲

2021年9月（静岡県、2歳、重傷）

【事故の内容】

こどもが破損した玩具（マグネットパズル）を複数個誤飲し、負傷した。

【事故の原因】

玩具（対象年齢3歳以上）の樹脂ケースが破損し、内部の円柱形のネオジム磁石が脱落して、こどもが誤飲したものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

誤飲、幼児

■事例⑥：カーテンの操作用ひもによる窒息

2023年1月（神奈川県、3歳、死亡）

【事故の内容】

こどもの首がカーテン（シェード）の操作用ひもに引っかかり、死亡した。

【事故の原因】

事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかった。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

操作紐

■事例⑦：幼児用ベッドガード（ベッド用落下防止柵）による窒息

2020年1月（兵庫県、0歳5ヶ月、死亡）

【事故の内容】

こどもが幼児用ベッドガードとマットレスの隙間に挟まり、死亡した。

【事故の原因】

事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、わずかに広がった柵とマットレスとの隙間にこどもの全身が落ち込んだ際に自力脱出できずに窒息したと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

ベッド用落下防止柵

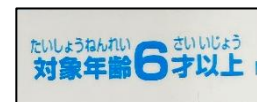
こどもの窒息・誤飲の事故を防ぐためのポイント

○小さな玩具やその部品、コイン形電池やボタン形電池の保管方法や扱いに注意する

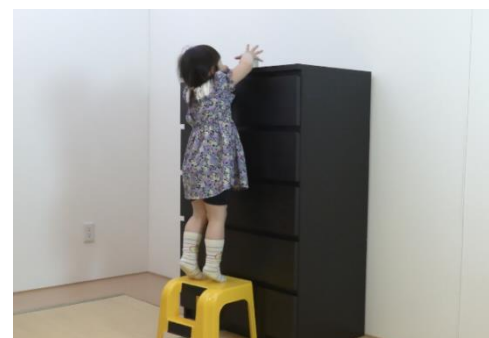
こどもが小さな玩具やその部品、コイン形電池やボタン形電池を飲み込んでしまう事故が発生しています。特に3歳までのこどもは、身の回りのものを口にに入れて確認しようとするので、誤飲の危険性が高いと考えられます。

玩具は購入前や使用前に対象年齢を確認してください。対象年齢を満たさない玩具等、誤飲のおそれのある製品は、こどもの手の届かない場所や鍵のかかる場所に保管するなど、保管場所に気を付け、こどもに触れさせないようにしてください。

また、玩具などの部品で口に入るサイズのものが外れたりしないか、確認してください。コイン形電池やボタン形電池を使用する玩具は、電池を格納しているふたが外れやすくなっていないか点検を行いましょう。



玩具の対象年齢表示例



手の届かない場所でもこどもは工夫して持ち出すことがある

○ブラインドの操作用ひも等ループ状のひもに触れさせない。

こどもが室内でかくれんぼなどをしている内に、首にブラインドの操作用ひもなどのループ状となったひもに絡まって窒息する事故が発生しています。ひもをこどもに触れさせないよう、次の点に注意しましょう。

- ・クリップなどでこどもの手の届かない位置にひもをまとめる。
- ・踏み台となるものをひもの近くに設置しない。



操作用ひもは高いところにまとめる

ひものつなぎ目を外れやすくする安全対策を施した製品や、ひもにループがない若しくはループが小さい製品もありますので、購入時の参考としてください。

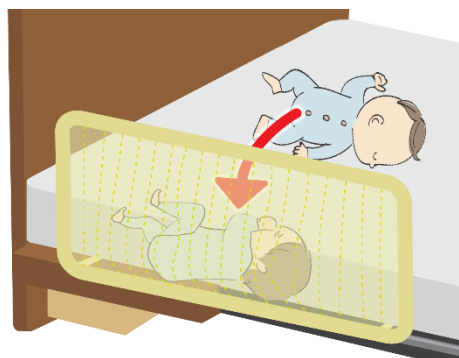
操作用ひも以外にも、カーテンの留めひも（タッセル）や高所窓の開閉用チェーンが絡まったことによる事故も起きていますので、ループ状のひもに注意してください。

○幼児用ベッドガードは、対象月齢に注意する。

幼児用ベッドガードは、小さなこどもに使用してしまうと、正しく固定しても隙間が生じて体が挟まり、自力では脱出できず窒息するおそれがあります。

製品購入前や使用前に、取扱説明書や注意表示で製品の対象月齢をよく確認してください。

一般財団法人製品安全協会が定めた製品安全基準（SG基準）では、幼児用ベッドガードの使用年齢を「生後18月以上」と定めており、「生後18月未満は窒息のおそれがあるため、絶対に使用しない」旨、取扱説明書等に記載することとなっています。



マットレスとの隙間に挟まり窒息のおそれ

（参考情報）

こどもの寝具に関する注意ポイントについては、以下、消費者庁ホームページも参考にしてください。

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/child/project_001/mail/20201105/

こどもの事故を防ぐためのポイント

○危険であることをこどもに伝える。

こどもが言葉で伝えて理解できる年齢になったら、製品の誤った使い方による危険や、正しい使い方を普段から教えるようにし、こどもとも一緒におうちパトロールを行ってください。

3. おうちパトロールでチェックすべきポイント例

外傷の危険	
<input type="checkbox"/>	こどもの近くでドアや収納扉を開閉する時は、こどもの位置を確認しているか。
<input type="checkbox"/>	こどもが触れられるところに設置された転倒の可能性のある家具は固定されているか。
やけどの危険	
<input type="checkbox"/>	電気ポットや電気ケトル、スチーム式加湿器、ウォーターサーバーをこども手の届くところに置いていないか。
<input type="checkbox"/>	電気ポットや電気ケトルの電源コードが、こどもの触れられるところに配置されていないか。
誤飲・窒息の危険	
<input type="checkbox"/>	玩具の対象年齢に合っているか。
<input type="checkbox"/>	玩具のコイン形・ボタン形電池を格納しているふたや部品が外れそうになっていないか。
<input type="checkbox"/>	対象年齢が合っていない玩具やコイン形・ボタン形電池は、こどもの手の届かないところに保管しているか。
<input type="checkbox"/>	ブラインドなどのループ状の操作用ひもを、クリップ等でこどもの手の届かない高いところにまとめているか。
<input type="checkbox"/>	幼児用ベッドガードの対象年齢に合っているか。

外出先のおうちや宿泊施設でも確認してください。

上記で挙げたポイント以外にも、スチーム式加湿器など、こどもにとって特に注意が必要な製品や危険な設置状況が考えられますので、前述のポイントも参考に確認してみてください。

事故事例・リコール情報を確認

○過去に発生した事故情報、リコール情報を確認する。

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「SAFE-Lite (セーフ・ライト)」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称(製品)に関連する事故の情報やリコール情報を検索することができます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。

<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>



お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 大下 龍蔵

担当者 製品安全広報課 宮川 七重、山崎 卓矢、岡田 有毅

Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

やけどの分類

やけどは深さによりⅠ度、Ⅱ度、Ⅲ度に分類され、それぞれ症状が異なります。その深さは皮膚組織（皮膚は外側から、表皮・真皮・皮下組織（脂肪）で構成されます）のどの部位まで損傷されているかで決定されます。皮膚の薄い子どもや老人では損傷レベルは深くなります。

また、同程度にやけどを受傷しても、体の部位により皮膚の厚さが異なるため（手のひらは皮膚が厚く、手の甲は皮膚が薄いなど）損傷レベルに違いを生じます。

浅いやけどは痛みなどの症状が強く、深くなるに従い痛みは少なくなっていくます。

表 やけどの深さの分類

	Ⅰ度	Ⅱ度	Ⅲ度
損傷レベル	表皮より浅い	表皮、真皮	皮膚全層・皮下組織
症状（外見）	赤み（充血、発赤）	水疱（水ぶくれ）	乾燥（黒色、白色）
症状（自覚）	痛み、熱感（熱い）	痛み（損傷レベルが深くなるにつれて痛みが減少）	無痛、感覚なし
治癒期間	数日	1～4週間	1ヶ月以上
傷跡	残らない	残る場合と残らない場合がある	残る

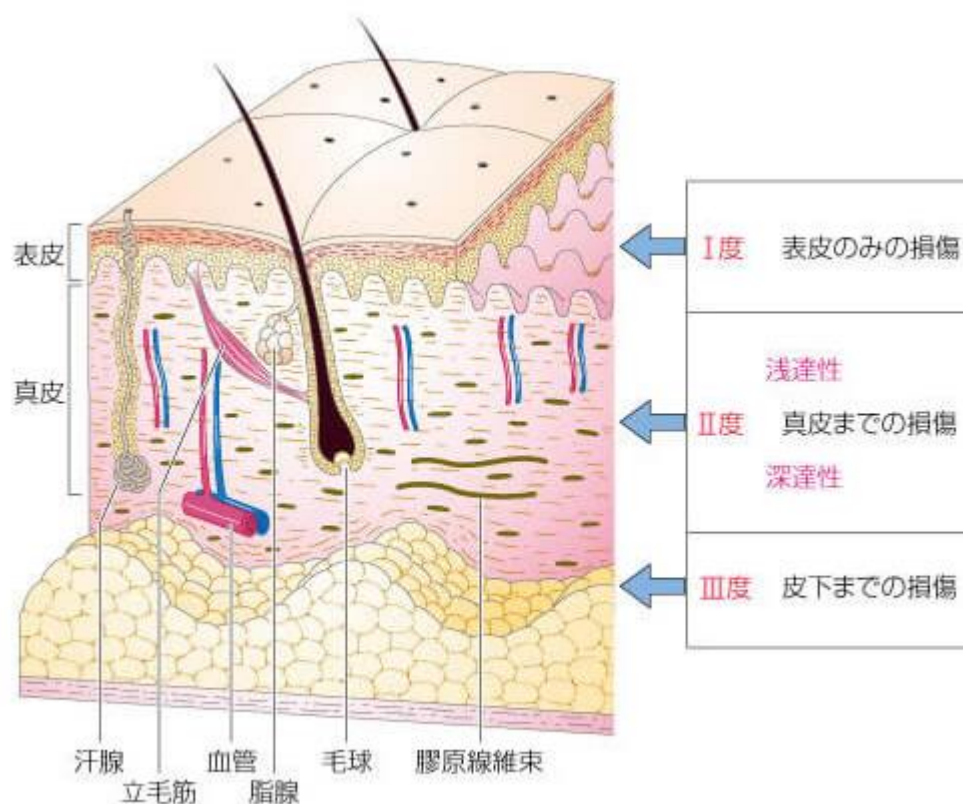


図 やけどの深さ

出典：一般社団法人日本形成外科学会

https://jsprs.or.jp/general/disease/kega_kizuato/yakedo/yakedo.html

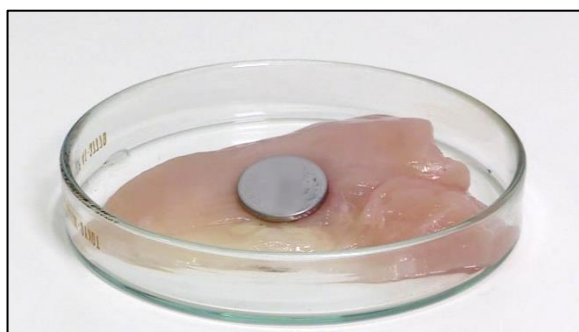
コイン形電池・ボタン形電池の誤飲による危険

コイン形電池やボタン形電池は、誤飲してしまうと気管を塞ぐなどして窒息を起こす危険のほかに、体内で電気分解を誘発してアルカリ性の物質を生じさせ、このアルカリ性の物質によって消化管の壁を傷つける危険があります。消化管に穴が開く可能性もあり、場合によっては死に至るおそれもあります。特に、コイン形リチウム電池は、飲み込んでから30分から1時間という短い時間で消化管の壁に潰瘍を作ってしまうおそれがあります。

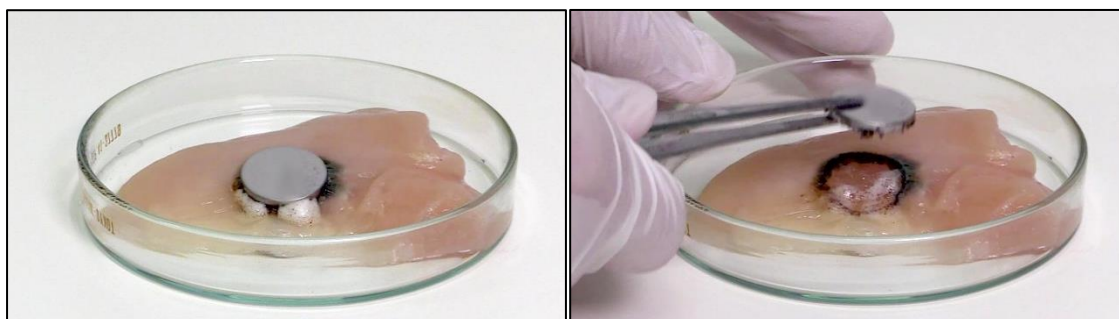


(出典：the Sydney Children's Hospital Network)

コイン形リチウム電池を誤飲したこどものレントゲン写真



実験開始直後



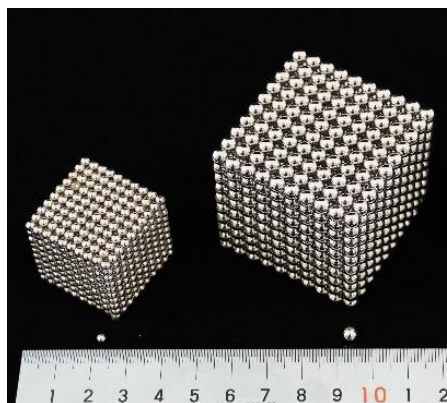
約1時間経過時

鶏肉を使用したコイン形リチウム電池の誤飲の再現実験

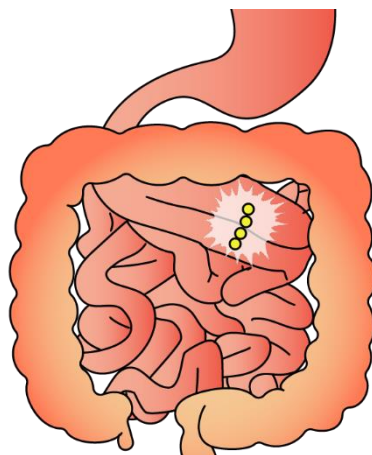
※電気分解により発生したアルカリ性物質がタンパク質などを損傷させ穴が開いている

磁石の誤飲による危険

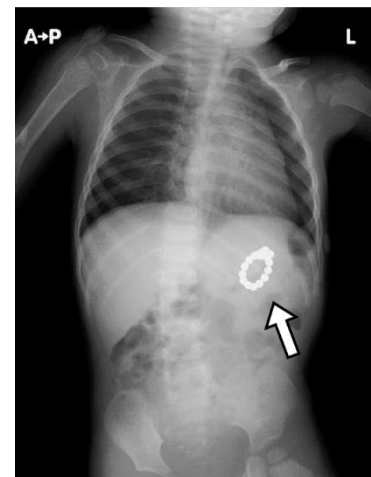
マグネットセット等の小さく強い磁力を持つ磁石は、容易に飲み込みやすく、また離れた位置にあっても引きつけ合うため、胃や腸といった消化管壁越しに引き合い、壁を挟んで引っ付いて自然排出されなくなります。それによって挟まれた消化管壁の血流が滞り、壊死することで消化管壁に穴が開くおそれ等があります。



マグネットセットの例



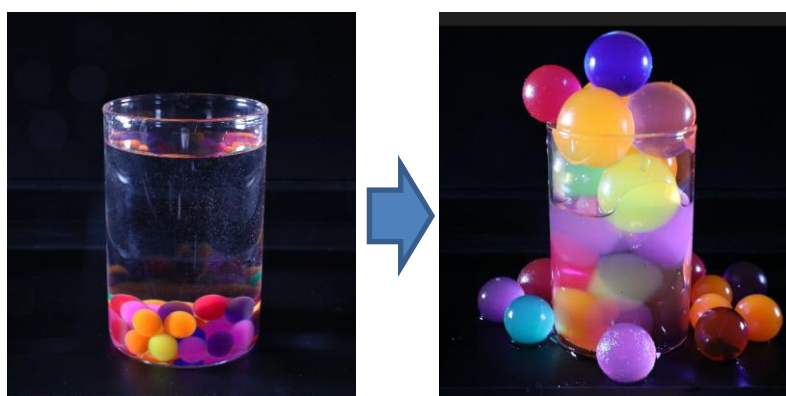
マグネットセットの誤飲により消化管壁を挟んで引き合うイメージ



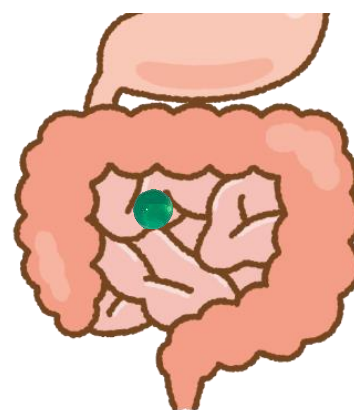
マグネットセット誤飲患者のレントゲン写真
出典：日本小児科学会「Injury Alert(傷害速報)」

水で膨らむボールの誤飲による危険

水で膨らむボールを飲み込むと胃液や腸液等の体液を吸収し、消化管内で膨潤します。狭い消化管内で詰まった場合には、自然排出されにくく、腸閉塞を生じるおそれがあります。



水で膨らむボールの吸水前後の変化
(水道水を使用し、適宜容器に水を補充)



水で膨らむボールの誤飲により消化管内で膨潤するイメージ